

## — 會 告 —

## 日本鐵鋼協會『鐵と鋼』誌へ寄稿規程

(今回寄稿規程を次の通り訂正及び追加しましたのでお知らせします)

1. 本寄稿規定を厳守していない原稿は受付けない。
2. 論文署名者は原則として會員とする。但し特に編集委員會の認めたものはこの限りでない。
3. 寄稿者は會員の種別(贊助, 正, 學生)を明記すること。
4. 寄稿内容は本協會講演大會又は地方支部講演會に於て講演したものに限る。講演してないものは原則として受付けない。
5. 寄稿論文の内容は、投稿時に於て印刷により公表されていないことを原則とする。
6. 原稿用紙は本會所定のものを用いること。御請求次第一冊(30枚綴)30圓にてお送りします。
7. 論文は出来るだけ簡単にし圖表を含めて會誌5頁(400字詰原稿用紙25枚)を超えないこと。
8. 論文の冒頭には歐文のアブストラクトを記載すること。
9. 本文は成るべく常用漢字を用い、平かな交り左横書きとし、新かなづかいを用い、術語は工業標準用語及び學術標準用語を使用すること。
10. 數字は算用數字を用い、外國語は片假名にて、外國固有名詞は原語のまま記すこと。
11. 圖・寫眞・表はなるべく少くし(圖, 寫眞は合計10個以内に制限)同一事項を圖表兩方にて表わすことを避け、次の要領に従うこと。
  - (イ) 圖及び寫眞は圖毎に別紙とし、圖は白紙又は淡青色方眼紙に墨できれいに書き、直ちに凸版にできるようにすること、青寫眞は使用しないこと。
  - (ロ) 圖は幅が70mm程度に縮寫しても圖中の文字が明瞭に判讀できるように適當の大ききとすること、但し圖中の文字は鉛筆書にされたし。
  - (ハ) 圖・寫眞・表等の挿入箇所は豫め原稿中に指定し、表はなるべく本文中に挿入すること。
12. 數字は印刷に便なるように注意し、文中に挿入するときは、 $a/b$ ,  $x/(a+b)$  のように記し、行の上下に出ないようにすること。
13. 各種單位, 記號及び數量を表わすには次の例に従うこと。
 

km (キロメートル)	mm <sup>3</sup> (立方ミリメートル)	.SKola~o2a (セーゲル雜零一乃至零二番)
m (メートル)	cm <sup>2</sup> (平方センチメートル)	10.35 圓 (十圓三十五錢)
cm (センチメートル)	kg/cm <sup>2</sup> (毎平方センチメートル・キログラム)	56,350 (五萬六千三百五十)
mm (ミリメートル)	kg/mm <sup>2</sup> (毎平方ミリメートル・キログラム)	1948年6月 (千九百四十八年六月)
t (トジ, 1000kg)	% (パーセント)	78—85°C (攝氏七十八度乃至八十五度)
kg (キログラム)	cal (カロリー)	Cr-Mn-W 鋼 (クロム, マンガン, タングステン鋼)
g (グラム)	Kcal (キロカロリー)	mg (ミリグラム)
m <sup>3</sup> (立方メートル)	min (分)	l (リットル)
cc (立方センチメートル)	1/2N (二分の一規定)	sec (秒)
14. 抄録, 譯文及び文獻の出所は著者名, 雜誌名, 發行年度, 卷數, 號數, 頁數の順に記載すること
15. 原稿は編集委員會に於て取捨變更することがありますから豫め御了承せられたい。

## — 會 告 —

## 〔鋼の熱処理と作業標準〕

さきに本誌會告でお知らせしておきました上記「鋼の熱処理と作業標準」はその後註文あとを絶たず残部僅少となり、その賣切れも目前に迫りました。御入用の方は此際至急御申込下さい。

頒價 1冊 金 300圓

小包料金 は4冊まで 60圓 4冊迄を増す毎に 20圓増

## “鐵と鋼” 昭和26年11月號 論說豫告

輪西町第3高爐操業の特異性に於て .....	{ 小野田武夫 楠野桂三
リムF鋼の凝固途上のガス放出に就て .....	{ 下川義雄 田上豊助
製鋼に於ける鋼滓のイオンの舉動について .....	松下幸雄
低炭素鋼の焼鈍脆性に關する研究 .....	工博 菊池浩介
ジルコニウム鋼に關する研究 (第2報) .....	長谷川正義
高壓筒材料の研究 (第1報) .....	{ 阿部富美夫 谷口豊吉 齋藤利生
特殊鑄鐵の研究 (第6報) .....	工博 三ヶ島秀雄